

北海道有珠湾から得られたチクゼンハゼ

酒井治己・澤田幸雄・落合敏邦

A Small Gobiid Fish, *Paleatogobius uchidai*, Collected from Usu Bay, Hokkaido

Harumi Sakai, Yukio Sawada
and Toshikuni Ochiai

(Received December 19, 1980)

Eighty-four specimens of a gobiid fish, *Paleatogobius uchidai* Takagi, were collected in Usu Bay ($42^{\circ}30'N$, $140^{\circ}45'E$), Hokkaido in 1980. Since this species has been known only from Kyushu district, the collections from Usu Bay are a new record for Hokkaido, which is far north of the localities previously recorded. The presence of some common environmental factors for the type locality and Usu Bay, as well as the occurrence of mature females and many juveniles in August, suggests that this species breeds in Usu Bay.

(Faculty of Fisheries, Hokkaido University, Hakodate 041, Japan).

ハゼ科の一種、チクゼンハゼ *Paleatogobius uchidai* Takagi が北海道伊達市有珠(北緯 $42^{\circ}30'$ 、東経 $140^{\circ}45'$)の有珠湾の干潟部で採集された。本種は福岡県鉾川河口から採集された標本に基づき、Takagi (1957) が新属新種として報告して以来、福岡県、大分県、長崎県、宮崎県の九州4県より分布が確認されているにすぎない(道津, 1957; 高木, 1966)。従って、今回採集された標本は、九州以外では初記録であり、しかもかなり北方の記録であるので、主な形態的特徴と共に、生息地の状況を略記し、再生産の可能性を検討する。

本報告で用いた標本は、総数84個体で、1980年6月21日と8月13日の2回の採集で得られたものであ

る。6月21日に採集された標本は2個体(HUMZ (Laboratory of Marine Zoology, Faculty of Fisheries, Hokkaido University) 88095, 26.4 mm SL; HUMZ 88096, 25.2 mm SL)で、性別不明の成魚である。一方、8月13日に採集された標本は82個体で、そのうち2個体は雌成魚(HUMZ 89734, 29.0 mm SL; HUMZ 89735, 27.8 mm SL, Fig. 1)で、抱卵していた。その他はすべて体長14.9~19.4 mmの幼魚もしくは稚魚である(HUMZ-L 424; NSMT-P (Department of Zoology, National Science Museum) 19539)。

これらの標本の主な形態的特徴は、下顎直後に1対の孔器を供えた小さなくぼみがあり、それに続いて小突起、次に1対の鬚が存在すること、頭部側線感覚管は2本の眼肩甲管前部と3個の開口を供えた前鰓蓋骨管からなること、鱗は小さく、尾柄部の体側正中線上のものは皮膚下に埋没していること、体側前半から長た円形の斑紋が1列に並び、後半になるに従って斑点列になることなどで、Takagi (1957) の原記載とよく一致した。また、成魚4個体を含む10個体(14.9~29.0 mm SL)の主な計数形質と体各部の体長比及び頭長比も原記載のものと同様一致した(Table 1)。なお、原記載では触れられていないが、脊椎骨数については、腹椎骨が14~16、尾椎骨が18または19で、総脊椎骨数は33~34であった。腹椎骨数と尾椎骨数の最も多い組み合わせは15+19=34であった。一方、背鰭担鰭骨については、第一背鰭の第1担鰭骨が第4と第5脊椎骨の神経棘間、第2と第3担鰭骨が第5と第6脊椎骨の神経棘間、第4と第5担鰭骨が第6と第7脊椎骨の神経棘間、第6担鰭骨が第7と第8脊椎骨の神経棘間に挿入され、また第二背鰭の第1担鰭骨は第13脊椎骨をまたぎ、最後の担鰭骨は臀鰭の最後の担鰭骨と相対し、第23もしくは第24番目の神経棘の前に挿入される。

有珠湾は噴火湾に開く小湾で、湾奥部に洞爺湖から



Fig. 1. *Paleatogobius uchidai* from Usu Bay, Hokkaido. HUMZ 89735, female, 27.8 mm SL.

Table 1. Comparison of counts and proportional dimensions between types and specimens from Usu Bay of *Palaetogobius uchidai*. Parenthesized data show the number of specimens.

	Takagi (1957)		Specimens from Usu Bay
	Holotype	Paratypes	
Number of specimens	1	5	10
Total length (mm)	31.0	28.2~36.8	17.8~34.5
Standard length (mm)	25.5	23.0~30.0	14.9~29.0
Dorsal fin rays	VI, I-11	VI, I-10 (2) or 11 (3)	VI, I-10 (4) or 11 (6)
Anal fin rays	I, 10	I, 9 (2), 10 (2), 11 (1)	I, 9 (1) or 10 (9)
Pectoral fin rays	19	19	16~19
% of standard length			
Head length	27.5	26.5~28.0	26.2~29.8
Body height	15.7	14.8~16.0	12.3~14.1
Longest spine of 1st dorsal	9.4	10.7	10.1~10.7
Pelvic fin length	19.6	19.1~21.0	15.8~20.0
Pectoral fin length	18.8	18.3	16.2~24.0
Caudal peduncle length	19.6	18.3~20.8	20.4~24.0
Caudal peduncle height	8.6	8.3~9.6	5.8~8.4
% of Head length			
Eye diameter	22.9	20.6~24.2	18.7~26.8
Interorbital width	14.3	11.1~15.7	9.4~17.6
Snout length	25.7	22.6~25.7	20.8~26.6
Maxillary length	64.3	62.7~64.3	37.6~63.6

の伏流水が数カ所湧き出ており、結氷することはない。本標本が採集された干潟部には、アナジャコ、ゴカイ類等の孔が多数存在する。九州においてはチクゼンハゼはこれらの空孔を産卵室として利用しており(道津, 1957) 当地が本種の生息地であると同時に、産卵場である可能性が考えられる。

道津(1957)によれば、福岡県では本種の産卵期は1~3月、全長15mm以上の仔魚の出現は5~6月である。一方、有珠湾においては、8月に抱卵している雌成魚と体長20mm以下の稚魚が多数得られている。

以上の2点から判断して、本種は有珠湾に偶生していたというよりは、むしろ当地において再生産しているものと考えられる。

本稿を終るにあたり、原稿の校閲を賜った北海道大学水産学部発生学遺伝学講座濱田啓吉教授、横須賀市博物館林公義氏に深く感謝の意を表す。

引用文献

道津喜衛. 1957. チクゼンハゼの生態・生活史. 魚類学雑誌, 6(4~6): 97~104, figs. 1~5.
 Takagi, K. 1957. Descriptions of some new gobioid fishes of Japan, with a proposition on the sensory line system as a taxonomic character. J. Tokyo Univ. Fish., 43(1): 97~126, figs. 1~8, pls. 1~5.
 高木和徳. 1966. 日本産ハゼ亜目魚類の分布および生態. 東京水産大学研究報告, 52(2): 83~127, figs. 1~3.

(041 函館市港町 3-1-1 北海道大学水産学部)